

早期発見・治療で命が助かる 大腸がん

便潜血検査を受けて早期発見!

監修：馬場真木子先生 (日本橋レディースクリニック院長)

罹患率も死亡率も
常に上位

早期発見
できる病気!

部位別がん死亡率(2020年)

部位別がん罹患率(2019年)

	女性	男性	女性	男性
1位	大腸がん	肺がん	乳がん	前立腺がん
2位	肺がん	胃がん	大腸がん	大腸がん
3位	膵臓がん	大腸がん	肺がん	胃がん

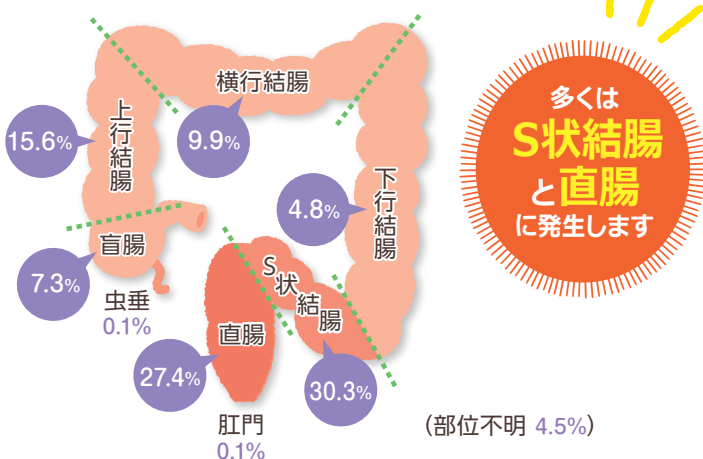
「最新がん統計」(国立がん研究センター がん情報サービス)

大腸がんは近年男女共に増え続けて、罹患率は男性10人に1人、女性は13人に1人となっています(国立がん研究センターがん情報サービスHPより抜粋)。大腸がんの死亡率も増加し、女性のがん死亡原因のトップです。

早期に発見できれば怖くない!

大腸がんは大腸粘膜に発生するがんで、「良性のポリープが大きくなる過程でがん化する」経路と、「正常粘膜から発生する」経路があります。早期に発見されれば治療する可能性の高いがんです。

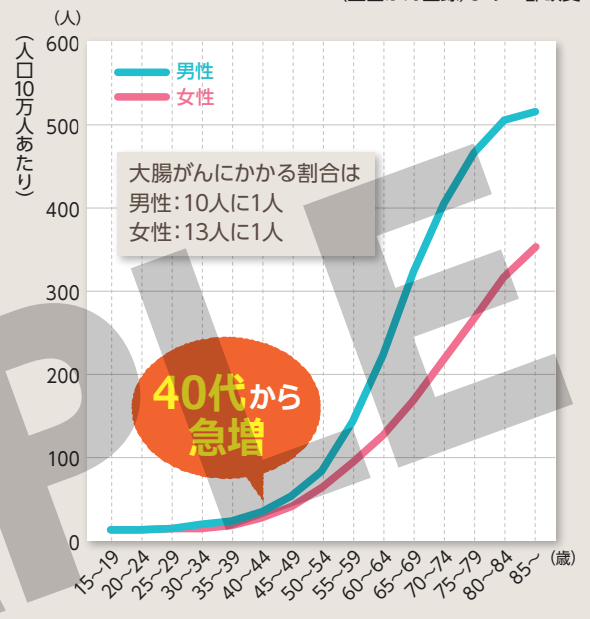
大腸がん発生部位



(上図) 消化器がん検診学会 平成30年度消化器がん検診全国集計より

大腸がんの年齢別の罹患率(2018年)

出典：国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(全国がん登録)より一部改変



Q 便の状態と大腸がんは関係あるの?

大腸がんが進行すると便秘下痢が繰り返し起こったり、便が細くなる、便に血が混じるなどの症状も出てきます。便にはいろいろな情報が入っています。体からの便りと思って、いつも気をつけてみることを心がけましょう。

Q 赤い血が混じった便が出た。痔ですよね?

「赤い血=痔」と思い込んではいけません。大腸がんの好発部であるS状結腸、直腸から出血する際も、赤い血として認められます。痔だと思っていたら、実は大腸がんだったというケースも多いのです。血便は、ほかに潰瘍性大腸炎など増加傾向にある炎症性腸疾患でもみられます。出血や便秘異常などの症状を認めるときは、大腸検査が必要です。必ず受診しましょう。

初期はほとんどの場合無症状。だから検診が大事です

大腸がんのリスク要因と予防

大腸がんの発生は生活習慣と関わりがあるといわれています。リスクを上げる【**確実**】なものとして喫煙と飲酒、【**ほぼ確実**】なものとして肥満があげられています。またリスクを上げる【**可能性がある**】ものには、女性の大腸がんに対する赤身肉や保存加工肉があげられています。リスクを下げる要因として結腸がんに対しては運動が「**ほぼ確実**」なもので【**可能性がある**】ものとして食物繊維があげられています(国立がん研究センター 科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究)。家族に大腸がんや大腸ポリープがある場合も注意が必要です。

生活習慣に関わる リスク要因

運動不足、野菜果物の摂取不足、赤身肉や保存加工肉の過剰摂取、飲酒(確実または可能性の大きな要因)

予防策

食物繊維
摂取 + 運動

便潜血検査 ここが知りたい

便の採取は検査当日、前日、前々日の3日間のうちから2日間採取が望ましく、採取後は冷蔵庫で保存します。便秘でどうしても2回目の採取が出来ない場合は、検査精度は下がりますが1本のみでも提出してください。

便秘気味で、
続けず2回
採取できない

痔の出血がある。
便潜血検査で
陽性になる？

痔からの出血でも潜血反応陽性となりますが、「痔」だという先入観は持たないようにしましょう。便潜血検査が陽性のときは必ず大腸の精密検査が必要です。

多くは検診で発見されます

早期は目立った症状がありません。発生する場所により症状も変わりますが、進行すると血便、便通異常(便秘や下痢の繰り返し)、便が細くなるほか、貧血や腹痛、嘔吐など、ほかの病気でも出現する症状も出てきます。

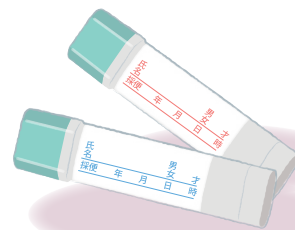
年1回の便潜血検査が重要

国が定めた大腸がん検診は40歳以上から毎年便潜血検査となっています。大腸がんやポリープなど病変から出血しているときには、大腸疾患の発見につながります。しかし、病変部から出血していなければ結果が陰性になるため、毎年便潜血検査を受けることで、大腸の病気の発見につながります。

科学的に有効性が認められた検査です

日本で行われている便潜血検査免疫法においては、検診を毎年受診した際は大腸がん死亡が60%減るといわれています(有効性評価に基づく大腸がん検診ガイドライン)。便潜血検査で異常がなくても、肛門からの出血や

便通異常などの症状のある方は、年齢に関わらず精密検査が必要です。



ためらっては
ダメ!

検査結果が陽性になったら

大腸疾患の発見につながる精密検査

検査結果が陽性となった際は、すみやかに精密検査が必要です。精密検査としては「注腸検査(肛門からバリウムを注入)」「大腸内視鏡検査(肛門から大腸カメラを挿入)」「大腸CT検査」があります。

「要精密検査=がん」ではありません

便潜血反応の陽性率は5.6%、その陽性反応が出た人が精密検査を受けた結果、大腸がんが発見されたのは0.123%です(H30年度消化器がん検診全国集計より)。不安がらずに精密検査を受けましょう。

早期発見のチャンスを 逃がさないで! すみやかに受診を

残念ながら便潜血反応が陽性でも59.5%の人しか精密検査を受けていない状況です(H30年度消化器がん検診全国集計より)。要精密検査となっても「痔があるから陽性になった」「便潜血検査のうち、1回のみ陽性だったから大丈夫」などと放置される方が非常に多いのです。

せっかく病気を見つける機会を得たのですから、必ず精密検査を受けて早期発見のチャンスを逃さないようにしましょう。女性の場合、女性外来や女性医師が担当する施設もありますので、恥ずかしがらずに検査を受けましょう。